内緒

ぴぴこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
内緒

【Ｎコード】
Ｎ８５００Ｈ

【作者名】
ぴぴこ

【あらすじ】
クラス委員として買い物に行くことになった男女のお話。

（前書き）

初めて投稿しました。
よろしかったら読んでみてください。

その日、担任の先生に渡すプレゼントを買いにもう1人のクラス委員と行くことになった。
私が彼にひそかに恋心を抱いているのは内緒。

待ち合わせの時刻より5分早く彼はやってきた。
ポロシャツにジーンズ姿でビニール傘をさして。
学校で、見るのと雰囲気が全然違う。やっぱり私服だからかな。

「うわぁ、ごめん！待たせちゃった？」
彼は来るなり開口一番そう言って謝った。「絶対俺のほうが早く来ようと思ってたのに…」とすまなそうに言う。

そう言ってもらえただけで嬉しかった。
「ううん、私も今来たとこだから」
本当はクラス委員の特権で休みの日も会えることが嬉しくて待ち合わせの時刻より30分も早く来ていた。けど、それは内緒。
彼はそうとほっと息をはくと、行こうかと声をかけた。
私は頷いて、歩き出した彼の隣を歩く。

「でも雨だなんてついてないよなぁ」
「そう？」
今日は確かにあいにくの雨。傘の花が辺りに咲き乱れている。
「うん。俺、雨の日嫌い。出かける気なくす。○○は？」
「私？私は…」

あなたと一緒なら雨の日も好きだよ。

不意に聞かれてそう答えようとしたけれど、恥ずかしくて言えない。
そんなこと言って気まずくなったら今日の買い物はできなくなる。
私が口をパクパクさせているのを彼は不思議そうに見つめている。
「あー、あのさ、もしかして……」
彼が照れたように顔をそらした。
何も言っていないのにバレてしまったのかと心臓が止まりそうになる。

「お腹空いてる？」
「え？」
予想もしなかった言葉にびっくりして、彼を見た。
「あれ、違った？何か顔赤いし、言いづらそうだったからもしかしてって思ったんだけど……」
決まりが悪そうに彼は言う。こんなとき彼はいつも微妙な顔で笑う。
その顔がおかしくて思わずくすりと笑ってしまった。
「うん、そうなの。ちょっと恥ずかしくて言えなかったんだ」
本当は食べてきたけれど、彼の優しさを無駄にしたくなくて嘘を吐いた。
「そっか。良かった。実は俺も食べてきてないんだ。じゃあどっか入ってから買いに行こう」
彼は嬉しそうに笑い、行き先を変えた。

しばらく他愛ない会話をして、ふと彼が言った。
「さっき、俺雨の日嫌いって言ったけど」
「うん」
「〇〇と一緒なら雨の日も好きだよ」
「え……」

そのあと、2人して照れてしまったのは内緒。

（後書き）

拙い文章読んでいただきありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8500h/

内緒

2010年10月14日16時51分発行